

愛・技・絆で新たな学校づくりに挑戦

支部長 有本 秀雄

(五十八年度)

新型コロナウイルスに対して、感染症対策と健やかな学びを両立し、新たな学校教育の在り方を創り出していかなければならない。

書面会議となった代議員会では、本年度の基本方針「**新しい時代の教育を創るときわ会**」を受け、活動の重点と重点達成の方策が承認された。吉田 隆ときわ会長は、本年度大切にしたいこととして、「**研修と親睦の両立**」「**ベテランの知恵と若手の発想の融合**」の二点を示された。

本年度の基本方針や会長の思いをしっかりと受け止め、前例踏襲が意味をもたない現状だからこそ、私たち自身が新たなよき前例を創り出すという気概を強くもちたい。そのために、「**愛・技・絆**」の三点を支部では、「**愛・技・絆**」の三点を常に意識しながら、日々の教育活動や支部活動を進めていく。

学校が再開され、安全と学習進度の双方に目を配りながら学校生活が行われている。私たちの意識

の真ん中にあるのは何か。学習指導要領か。教育課程か。否である。子どもである。安心の中で子どもの力を伸ばしたい。学習の遅れ解消という大人の都合ではなく、子どものための教育活動を尊ぶ「**愛**」を何よりも大切にしたい。

しかし、子どもへの愛だけでは、子どもを教え導くことは難しいことを私たちは知っている。分かった。できた。失敗を乗り越えられた。自信をもてた。そんな笑顔や感動を子どもと共に味わうには、寄り添い導き支え抜く教育のプロとしての「**技**」が不可欠である。

「**愛**」と「**技**」すなわち、教職員としての資質と指導力を、私たちはこれまで会員相互のかかわりを基盤とした研修を通して高めてきた。それが思うようにできない状況にある。支部ではそれを補完するため、遠隔会議のための機材等を整備する。ICTの活用で「**絆**」を一層強固にし、会員一人一人の輝きを更に増していきたい。